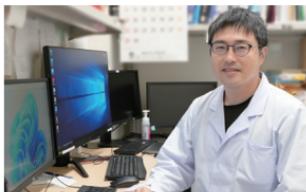


# 放射線治療について

今回は放射線治療センター医長 石川浩史先生  
に「放射線治療」について伺いました。



▲石川 浩史 医師

施行されることがあり、がん治療において様々な場面で活躍します。

放射線治療を受けられた患者さんの数は1990年では7万人程度であったものが最近では25万人を超えております。しかし、がん患者さんが放射線治療を受ける割合は、欧米では6〜7割であるのに比べて、日本では3割程度に留まっております。

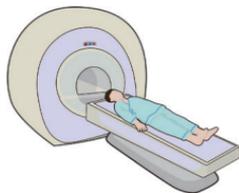
近年の高精度化に伴い、腫瘍への線量の増加や正常組織の線量低減が可能となっております。多くのがんで手術と同程度の治療成績が得られるようになっております。機能温存にも優れているた

め、治療後の「生活の質」の維持も期待できます。放射線治療単独であれば通院で治療が可能なため、仕事をしながら受けていただくこともできます。

基本的には平日毎日の治療となり、内容によっては1ヶ月半〜2ヶ月間の通院または入院が必要になることがあります。しかし、1回の照射線量を増やすことで、

放射線治療は手術療法、薬物療法と並んでがん治療の3本柱の一つとされています。がん病変に放射線を集中的に当て、かつ周囲の正常臓器に当たる放射線量を極力減らすことでがんの根治を目指す治療法です。

また、がんに伴う疼痛や麻痺、出血などといった症状の緩和の目的でも



患者さんの通院回数を減らす試みもなされており、例えば前立腺がんであれば、40回/2ヶ月間で行われていた治療が5回/2週間で済む場合があります。

すべてのがんに対して適応があるというわけではないのですが、治療の選択肢の一つとして放射線治療を検討していただけると幸いです。



社会福祉法人 恩賜財団

済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1-6

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp>

☎0898-47-2500

